HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究会報・編集後記
Citation	独語独文学研究年報, 38, 51-54
Issue Date	2012-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49074
Type	other
File Information	kenkyukaihou_v38.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研　究　会　報

講義題目（2011 年度）

［学部］

ドイツ語学概論	ドイツ語の構造とその背景 11	清水　誠
ドイツ語学演習 I	ドイツ語学の基礎知識 11	清水　誠
ドイツ語学演習 II	ドイツ語学文献読解 I: 11	清水　誠
ドイツ語学演習 II	ドイツ語学文献読解 II: 11	清水　誠
ドイツ文学史概説	文学史記述の諸問題	山田　貞三
ドイツ文学演習 I	ドイツ文学入門 11	山田　貞三
ドイツ文学演習 II	ドイツ文学研究 11	山田　貞三
ドイツ文学演習 I	掌編・短編を読む	藤本　純子
ドイツ語学	Sprachliche Fertigkeiten I: Lesen und Hören	Matthias Grünewald
ドイツ語学	Sprachliche Fertigkeiten II: Schreiben und Sprechen	Matthias Grünewald
ドイツ語学	Literaturdidaktik theoretisch und praktisch I	Matthias Grünewald
ドイツ語学	Literaturdidaktik theoretisch und praktisch II	Matthias Grünewald
ドイツ文学演習 I	Fachsprache Werbung I	Matthias Grünewald
ドイツ文学演習 I	Fachsprache Werbung II	Matthias Grünewald
ドイツ文学演習 II	Deutsche Erinnerungsorte I	Matthias Grünewald
ドイツ文学演習 II	Deutsche Erinnerungsorte II	Matthias Grünewald
ドイツ文学	Alles unter einem DACH (D=Deutschland, A=Österreich, CH=die Schweiz)	Gabriele Christ-Kagoshima
ドイツ文学	Einblicke, Eindrücke und neue Ideen	Gabriele Christ-Kagoshima

［大学院］

ドイツ語学ゲルマン語学特別演習	ゲルマン語学の諸問題 11	清水　誠
ドイツ語学ゲルマン語学特別演習	ドイツ語学の諸問題 11	清水　誠
言語分析論特別演習	歴史比較言語学研究 11	清水　誠
博士論文指導特殊演習		清水　誠
ドイツ文学特別演習	Germanistik und Kulturwissenschaft11-1	山田　貞三
ドイツ文学特別演習	Germanistik und Kulturwissenschaft11-2	山田　貞三
博士論文指導特殊演習		山田　貞三
ドイツ語ドイツ文学特殊講義	Der Prozess der Europäischen Union I	Matthias Grünewald
ドイツ語ドイツ文学特殊講義	Der Prozess der Europäischen Union II	Matthias Grünewald

研 究 会 行 事 記 録

1. 2011 年 2 月 9 日、北海道大学文学部 W408 号室（新棟 4 階）において 2010 年度修士論文・卒業論文発表会が行われた。

2. 2011 年 6 月 29 日、北海道大学ドイツ語学・文学研究会総会において幹事選出等が行われた。

〈留学関係〉

2011 年 11 月、西出佳代氏がルクセンブルク大学留学を終え、帰国した。

〈評論関係〉

（『史学雑誌』120－5, 回顧と展望）において、本機関誌に投稿された中村寿氏による論文についての講評が掲載された。

対象となった論文の題目は、「プラハにおけるユダヤ人学生協会バル・コホバの初期活動　機関新聞『自衛 （Selbstwehr）』の創刊まで（1899－1907 年）」（『独語独文学研究年報』36 号、2009 年所収）である。

〈受賞関係〉

2011 年 6 月、西出佳代氏が 2010 年度ドイツ語学文学振興会の奨励賞を受賞した。

受賞対象となった論文の題目は、「ルクセンブルク語における補文標識の屈折」（『ドイツ文学』140 号 Band 8/ Heft 2, 2010 所収）である。

〈就職等〉

2011 年 4 月、熊坂亮氏が北海学園大学准教授に就任した。

2010 年度　　独語独文関係の論文題目

卒 業 論 文

大　木　祐　介：　　「グリム童話に見る『魔女』の形態」

丹　羽　俊　侑：　　「日本におけるドイツ語学習の始まりとその学習環境」

原　野　有　佳：　　「カレンダーゲシヒテン――J. P. ヘーベルの世界――」

修 士 論 文

岡　田　江　里：　　「ドイツ人の森林観形成過程への一考察
――近代林学とロマン主義を中心として――」

金　　雅　耶：　　「ドラゴン、竜についての一考察」

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
   1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年 1 回発行する。
   2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教官・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。
5. 本会会員は上の活動の遂行のため、年会費 5 千円を払う。
6. 本会は 1 名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり 3 月 31 日をもって終わる。
8. 本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。
9. 本会に賛助会員をおく。

論文執筆要項

1. 論文審査
   1）本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
   2）論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。
   採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
   3）審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。

2. 原稿執筆規定

執筆申し込み	：	執筆希望者は、各年度の 6 月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。
ページ数	：	20 ページ程度。1 ページの文字数・行数は任意。ただし 35〜37 行程度が望ましい。
原稿の大きさ	：	A4。
論文題目	：	原稿 1 ページ目の最上段中央に、太字またはゴシックで多少大きめに記載する。2 行にわたっても構わない。また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。
注釈・文献	：	注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。
執筆者氏名	：	原稿 1 ページ目の 3 行目（題目との間に 1 行あけること）、太字またはゴシックで右端に記載する。
身分の明記	：	原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。
締め切り	：	10 月 31 日。

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	阿 部 和 夫	石 原 次 郎	岩 井 洋
岩 田 聡	※植 木 迪 子	梅 津 真	岡 田 江 里
※川 島 淳 夫	川 嶋 幸 子	岸 川 良 蔵	岸 本 明 子
北 原 寛 子	熊 坂 亮	佐 藤 修 子	佐 藤 俊 一
山 藤 顕	塩 谷 幸 子	清 水 誠	シャイフェレ馨子
神 久 聡	○杉 浦 康 則	鈴 木 将 史	高 橋 修
高 橋 希 衣	田 中 剛	対 馬 晃	寺 田 龍 男
戸 松 豊	○中 村 寿	中 祢 勝 美	名 執 純 子
名 執 基 樹	西 川 智 之	西 出 佳 代	藤 本 純 子
本 多 竜 二	丸 山 絢 子	前 原 真 吾	松 橋 知 子
三 浦 國 泰	森 田 一 平	◎山 田 貞 三	山 田 善 久

◎は会長　　○は幹事　　※は名誉賛助会員

編集後記

レフェリー制を導入して 11 年目となりました。掲載論文は厳正な審査を受けた論文です。ご多忙中、快くレフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

編集委員一同